

ジャワ・スマトラ連系送電線計画（調査・設計等のための役務）【インドネシア】

施策所管局課 国別開発協力第一課
 評価年月日 平成 31 年 4 月

1 案件概要	
(1) 供与国名	インドネシア共和国
(2) 案件名	ジャワ・スマトラ連系送電線計画（調査・設計等のための役務）
(3) 目的・事業内容 * 閣議決定日，供与条件などを含む	<p>ジャワ系統及びスマトラ系統において，送電線及び変換所の新設等を行うことにより，両系統の電力需給逼迫の緩和及び供給の信頼性向上を図り，もって投資環境の改善等を通じて同地域の経済発展に寄与するもの。本事業は，本体工事に先立つ調査・設計等のためのエンジニアリング・サービス（E/S）を対象とする。</p> <p>案件の内容 ・コンサルティングサービス</p> <p>ア 閣議決定日：平成 21 年 3 月 31 日 イ 供与限度額：38.86 億円 ウ 金利：0.01% エ 償還（据置）期間：30（10）年 オ 調達条件：一般アンタイド</p>
2 事業の評価	
(1) 経緯・現状	<p>ア 社会ニーズの現状 本事業計画当初，インドネシア全体の電力需要は年平均約 9.5% 伸びると見込まれており，エネルギー鉱物資源省作成（2008 年 11 月）の国家電力設備開発計画によると，電力の安定供給・信頼度向上には送電系統の拡張・強化が重要であり，効率的で質の高い電力供給のためには送電系統間の連系が重要であるとされていた。 現在においても，2019 年 3 月に作成された最新の国家電力設備開発計画では，同国全体の電力需要は年平均約 6% 程度伸びると見込まれており，電力の安定供給のため，現在も本事業に関する社会的ニーズがある。</p> <p>イ 事業遅延に関する経緯・現状 事業開始後，実施機関（国有電力会社）は電力需給や石炭価格等の事業環境の変化に伴い本事業の実現可能性（フィージビリティ）を再評価したいとの意向を示し，事業が中断。現在，フィージビリティの再評価を実施中であり，事業継続に向けて技術面や経済面の観点から，再評価内容を注視しつつ，早期の事業再開に向けた協議を実施している。</p>
(2) 今後の対応方針	<p>本件に関する社会的ニーズが引き続きあり，当初予定どおりの効果が見込まれることから，当面支援継続を前提としつつ，事業遅延の要因となっている実施機関によるフィージビリティの再評価の結果を踏まえ，インドネシア政府及び関係機関に対して，本事業の早期再開を働きかけていく。</p>
3 政策評価を行う過程において使用した資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交換公文 ・ 外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/zyoukyou.html) ・ 国際協力機構の案件検索

(https://www2.jica.go.jp/ja/yen_loan/index.php)

- ・ 国際協力機構の事業事前評価表

(<https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/before.html>)

- ・ そのほか国際協力機構から提出された資料